

## 第7回信濃川水系流域委員会 議事概要

開催日時：令和4年11月28日（月）14:00～15:00

場 所：WEB開催

議事次第： 1. 開 会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議 事

(1) 信濃川総合水系環境整備事業の事業評価について

① 現行事業計画及び事業評価

② 個別事業の完了箇所評価

③ 継続事業の事業再評価

5. 閉 会

### ○議事

(1) 信濃川総合水系環境整備事業の事業評価について

① 現行事業計画及び事業評価

② 個別事業の完了箇所評価

(委員A)

- 資料1-1 個別事業の完了箇所評価、5 ページ注意書きの桜づつみ盛土に関する記述において、盛土は防災用の土砂備蓄の目的を含むが、この事業費(C)は水辺整備と防災事業とでコストアロケーション（費用按分）をしていないので、水辺整備として計上すべき費用より大きい数値となっている旨を記載してもよいのではないか。
- 関連して、同資料7 ページ5. 今後の事後評価の必要性において、B/Cが1.3と記載されているが、実際のB/Cはもっと大きな値となること分かるような記載にしてもよいのではないか。
- また、同資料7 ページ7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性において、この種の多目的事業のコストアロケーション（費用按分）手法が確立されていないため、今後調査が必要である旨を記載してはどうか。

(事務局)

- ご提案を踏まえ、記載の方法について検討し、より分かりやすい資料になるようにしたい。

(委員長)

- この案件については、事業自体に関し効果が確認され、地域の理解、支持が得られており、今後の事業評価や改善措置の必要性はないことから、当委員会として特段の対応の必要は無いものとして、原案通り認めることとする。
- なお、CVMに関する評価の手法については、今後実績が蓄積されていくことによって、実

態に沿ったより適切なものに改善されていく可能性があるため、事務局は念頭に置いて評価法の改善を目標として欲しい。

### ③ 継続事業の事業再評価

(委員 B)

- 千曲川流域自然再生事業において、令和元年東日本台風の出水により全体の掘削土量が増大したとのことだが、新たに整備が必要になった箇所と土砂堆積により掘削土量が増加した箇所の、土量の内訳を教えて欲しい。

(事務局)

- 掘削土量増加の内訳については、後日説明する。

(委員 A)

- 資料 2-1 事業再評価の 17 ページ 6. 事業の必要性、進捗の見込み等で、地域により望まれている事業とあるが、河川管理者が考える必要性を明記しなくてもよいか。

(事務局)

- 追記するよう検討したい。

(委員 C)

- 効果の継続に関し、売上金額や利用者数、CVM の調査で検証しているが、インスタグラムやツイッター等のコメントやキーワードを調べることで、愛用者の変化をある程度定量的に示すことが可能であり、効果を補完するものとして活用してはどうか。

(事務局)

- 現在は手引きに基づき評価しているが、SNS のデータの活用により色々な効果の表現ができると思われる。適切に評価を進められるよう、改善について本省に伝えていきたい。

(委員長)

- 事業の実施状況、今後の見通しについて説明があり、費用便益分析についても相応の効果が認められる。また、コスト縮減については今後も縮減の方法を検討し、モニタリング調査についても配慮して行くとのことである。
- 事業の必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みもはっきりとしており、当委員会として、事業継続という原案を承認する。

以上。